

# 第21回OMEPP（世界幼児保育・教育機構）

## 世界大会を終えて

小川 清美

一九九五年八月一日から四日まで、横浜のみなと未来にあるパシフィコ横浜を会場にして、OMEPP世界大会が行われました。OMEPPという組織はユネスコやユニセフなどに助言する立場にある、子どもたちのために働く国際的な非政府組織（NGO）であり、現在六十か国以上が加盟しています。

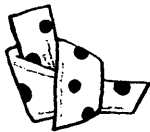
第二次大戦が終わった直後の一九四八年に第一回OMEPP世界大会が開かれました。その目的は世界の子どもたちの平和を願って始められたのです。それから約三年に一度の割合で世界大会が開かれてきました。こうして一九九五年に二十一回目の世界大会がアジア地域の中の日本の横浜で開催されたのです。OMEPPとしてはアジアで開催するのは今回

が初めてのことなものでした。OMEPP世界大会としては四十七年目にあたります。これまでの世界大会はヨーロッパか北アメリカで開かれていましたので、アジアでの開催というのはOMEPPの歴史の中でも画期的なことでした。

一九九二年のアメリカの北アリゾナ大学を会場とした大会で次の日本の横浜を会場にした大会が承認され、約三年をかけて準備して開催されたのでした。この世界大会は研究者たちによる研究発表だけで構成されているではありません。第二次世界大戦が終わってすでに五十年もたっているのに、今だに世界中のどこかに平和に暮らしていけない子どもがいるということを確認し、子どもと関わる世界中の人々が手を取り合って子どもたちの平和を守っていくようにと強い願いのもとに、海外四十四か国から約三百人の方々が、また国内からも千五百人以上の方々が集いました。このような多数の参加による世界大会はOMEPPの世界大会史上、はじめてのことでした。

「いま、人間を育てる——子ども時代の充実に向けて——」

これが今回の大会のテーマです。「人間を育てる」というあまりにも当然のテーマですが、現代だからこそ敢えてこのテーマにそって考えていかなければならないとOMEPP日本委員会は考えたので



した。テーマについて次のように説明されています。

「子どもたち一人ひとりのおかれている環境は、国により、また個々の家庭により、多様に異なっています。しかし、どの子どもも、人間として、育てることに専念する大人を必要としていることに変わりはありません。

社会がますます複雑化し、環境の悪化が進んでいる現在、私たちは

幼い子どもたちのために働く保育者、また関連する専門職として、子どもたちが本当に必要としているニーズに応える仕事と責任を問い直すことが求められています」

そして1. 現代の環境と子ども 2. 子ども時代の充実に向けて 3. 乳幼児保育・教育の質の向上という三本の柱にそって参加者の発表と討論が行われました。中でも私たちがなかなか話を聞く機会がない国々からの報告は貴重なものでした。コロンビアからはストリートチルドレンの世話を精力的に行っているニコロ神父の報告。ブルガリアの子どもは現状を報告したのはイワン・デイミトロフ氏。バングラデシュからスザンタ・アディカリさん。アルジェリアからはヌーリア・ルウマーン女史。南アフリカからはマビツォ・マレバ女史。未だ紛争中で大会寸前まで来られるかどうかが決まらなかった北アイルランドのブリッド・ルディー氏。その他にもアジアではじめての大会に是非アジアの様々の国から参加して報告してほしいのでお願いしていたタイやネパールやインドネシアやインド



や中国の方々からの報告。そして日本からも日本保育学会会長の岡田正章氏の講演をはじめ、アジアで医療活動をしている岩村昇氏や阪神大震災を体験した阪神地域の子どもたちの報告が京極正典氏と市毛愛子氏からありました。これはNHKニュースでも取り上げられたのでご存知の方も多いでしょう。詳細はこれから様々な形で私たちに提示されることでしょうが本当に盛りだくさんの内容でした。

### 世界大会での交流のようす

OMEP世界大会には様々な交流のためのプログラムが用意されました。八月一日の夜に行なわれた歓迎レセプションには神奈川新聞主催の花火大会が色をそえ、八月三日の夜に懇親のために氷川丸でおこなわれたインターナショナルの夕べにも八百人の人々が集いました。海に落ちる夕日がすばらしく各国の交流が楽しく展開しました。八月二日の夜のプログラム、「アジア・太平洋洋子ども歳時記」という催しには各国の人々が自分の民族衣裳を身につけて披露し、とても華やかなものでした。各国の子どものいろいろな遊びや歌が披露され、学術的にもたいそう価値のあるものようです。この他にも神奈川県内の保育園や幼稚園や施設などを見学するプログラムを用意しました。担当者スタッフが、最大の努力をおしまなかったために、参加した方々には大変好評でした。さらに特に国外

の人々を対象にしたプログラムが二つありました。

その一つは特に円高の日本に来たくても来られない人々に宿泊施設を安価で用意することでした。これにはたくさんの保育園や幼稚園が協力して下さいました。つまり、お寺さんの保育園では寺の部屋を安く貸して下さったり、幼稚園のホールを貸して下さったり、お知り合いの宿舎を安くして下さったり、ご自分の家をホームステイとして貸して下さったりという善意によって実現することができました。実際には利用していただきたい方はVISAの取得に時間がかかったため、なかなか予約できず、スタッフは大会寸前まで、そして大会中ももちろん利用者たちのお世話をして下さっていたのです。

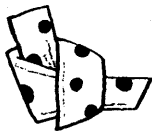
二つ目としては世界大会終了後、日本の人々ともっと親しく交流を深めるために二、三泊程度の小旅行が計画されました。以前OMEPドイツ国内委員会が日本に対して招待して下さったことがあるのでその際にお世話になった人々を中心となって快くホストファミリーを引き受けて下さり、これもまた参加者たちは大変満足してそれぞれのお国へ帰られました。ほとんどの人が保育者であったり、保育者を養成する立場にあるので共通の話題も生まれやすく交流もスムーズだったようです。このプログラムには特にスウェーデンやデンマーク、カナダやギリシャの方々が多く参加されました。日本の大都会ではなく、地方の小都市に希望が集中していたのが印象的でした。参加された方々は本当に積極的に関わり、本当に遠い遠い国であった日本を楽しんでいらっしやっただと思っっています。単

に日本委員会が御せん立てした計画におとなしく乗るのではなく、自らの意志を常に持っている海外の方々のパワーを私たちも少しは学ばなくてはいけないと感じたりしたのでした。

この他にも「横浜人形の家」では世界大会にあわせて特別展示として「人形・おもちゃが語る日本人の子育て」展を開催し、延べ三万人もの入場者を迎えました。そして横浜美術館でも「世界子ども美術展」として世界の子どもの絵や阪神大震災を受けた子どもたちの絵、この世界大会のロゴマークを製作して下さった和久洋三氏所蔵の子どもたちの立体作品などを展示し、約千人以上の入場者を迎えました。

パシフィコ横浜の会場の中でも目で見えるプログラムが用意されました。各国から様々な保育などの様子をつつしたVTRを持ってきていただいて、VTRショウをしたところ参加者からは大変好評でした。話を聞くことだけでなく、映像と音とが同時に動くVTRは魅力ある存在だったようです。また各国から保育事情をパネルに提示していただく展示コーナーも盛況でした。ここではゆかたの試着コーナーや折り紙コーナーやお茶席などもあり、討議などで疲れた方々にはとてもリラククスできる楽しいコーナーでした。まさに国際交流の場そのものだったのです。

楽しい所といえばバザー会場も満員でした。それぞれの国から小



さな手みやげを持ってきていただき、その品物をバザーで売り、売り上げは開催国の委員会とOMEP世界理事会の両方に寄付することになっています。たくさんの品物が飛ぶように売れていききました。

これらのプログラムが四日間の大会とその前後に計画され、実際に実施されたこと、しかもどれもが参加者に喜ばれたことは、スタッフたちの努力と忍耐の賜物だったと思っています。

### 世界大会を終えて

大きな会場でたくさんの人が集まり大盛況であった世界大会が本当に終わって、ほっとするのは閉会式でOMEPの旗を次に開催する国にお渡しした時なのです。舞台の上にはほとんど会場に入らず、裏方に徹したスタッフ達も並び、参加者からの暖かい、心からの拍手と「ありがとう」ということばを聞いて、自分たちの努力が実ったのだと実感することができました。

この世界大会のプログラムが充実したものになったことや大会運営がスムーズに行われたことには、実はたくさんの団体や人々が協力したからなのだということを忘れてはなら



ないと思います。それぞれの担当をそれぞれの方々がしっかりと遂行したからこそ世界大会が成功したといえるでしょう。幼稚園とか保育園のワクを越え、さらに宗教も越え、これまで一緒に顔を合わせることでさえなかった、様々の団体や人々がOME P世界大会のために何度も会議をして、理解を深め、ひとつの大きな課題をやりとげることができたのだと思います。これができたのはOME P日本委員会の会長である津守真先生の毎回の会議のはじめのあいさつにあったのではないかと考えています。津守先生ご自身もすでにいろいろなところで書いていらっしゃるように、「なぜOME P世界大会をするのか」というとそれは世界平和のためなのである」ということであり、この考えがスタッフたちの信念となっていたのではないかと思っています。

次回は一九九八年八月八日から十七日までデンマークのコペンハーゲンで開かれます。二十一世紀を迎えるためのたいせつなコンファランスになりそうです。

(埼玉純真女子短期大学)